（平成３１年４月１６日）

第３３回　赤松小三郎研究会　のご報告

日時：　Ｈ３１．４．１３（土）　１４：００～１７：００
場所：　東京・文京シビックセンター　４Ｆ　Ｂ会議室
出席者：１３名

＜　**配布資料**　＞

資料―１　●「洋学史学会の発表・・・赤松小三郎について」・・・石川浩
●「議会制」議論と軍事・・・橋本真吾さん作成
●「岩下哲典先生講演会報告　幕末の先覚者・上田藩士　赤松小三郎と坂本龍馬」・・・小山平六

資料―２　●「赤松小三郎と勝海舟」・・・滝澤進

＜　**内　容**　＞

１．　平成３０年１２月２９日にご逝去された丸山弘さんを偲び黙祷を捧げる。・・全員

２．　小三郎が使用したと思われる八分儀の実物紹介・・・関良基

３．　「洋学史学会での発表内容の報告」・・石川浩氏、東京工業大学大学院の橋本真吾氏のレジュメ　「議会制」議論と軍事　－上田藩士・赤松小三郎の洋学　－を配布

若い大学院生が赤松小三郎に興味を持ち、熱心に研究され、小三郎への思いを熱く語ってくれた事に感動したとの石川さんの感想であった。

４．　平成３１年２月２３日（土）、上田市の「パレオ」２階会議室で行われた岩下哲典先生講演会「幕末の先覚者・上田藩士　赤松小三郎と坂本龍馬」の報告・・小山平六

歴史ではバランス感覚が必要である。偏狭に陥らないために考えること。複眼の視座に立ち、ひとつの思想や宗教に囚われないことが大切。岩下先生はご自分の歴史学者としての立場を「全方位歴史学者」と自称されている。
（添付資料「岩下哲典先生講演会」ご参照）

５．　滝澤進氏による「赤松小三郎と勝海舟」

赤松小三郎は、安政元年（１８５４年）勝海舟に入門したが、翌安政２年（１８５５年）には勝の内侍（員外聴講生）として長崎海軍伝習所に入所し、その後の成長・飛躍へとつながる貴重な体験を積むことができた。

発表では、まず、勝海舟の思想と行動を、幕末政治の動きの中でたどるとともに、小三郎と勝との接点を確認し、それが小三郎の人生にいかなる意味を持ったかを考える。

また、赤松小三郎と勝海舟を、「政治思想」と「政治への影響」の両面から、比較する。

発表者の結論

勝海舟との比較における赤松小三郎

１　政治思想

小三郎と勝は、師弟関係にあり、古い制度を打ち破り、新しい時代を作り出そうする姿勢には、共通するものがあった。

思想の面では、赤松は、経済分野を含む幅広い近代化のためのグランドデザインを描き、「公武合体」の立場から先進的な議会制度の構想を他に先駆けて具体的かつ体系的に打ち出すとともに、「富国強兵」、「海軍力の強化」、「門閥の否定（人材登用）」、「西洋学術の積極的な導入」、「人材教育」などを提言した。

これに対し、勝の提言は、それぞれの重要な政治的時局に応じての対処案を述べるものが中心であったが、その政治姿勢は、横井小楠の思想的影響から、尊皇の立場に立ちつつ、徳川家は「私」であり、「公」による政治が必要だとして、雄藩連合を志向するものであった。

また、小三郎と勝は、「富国強兵」、「海軍力の強化」「門閥の否定（人材登用）」、「西洋学術の積極的な導入」、「人材教育」などの点においては、基本的に共通する考え方を持っていたが、小三郎が「国民平等」の立場に立つのに対し、勝は、身分制度を前提としていた。

２　政治への影響

政治への具体的な影響としては、赤松は、春嶽、久光、幕府への建白、西郷などへの幕薩一和の働きかけなどによるわが国政治体制の変革と「英国歩兵練法」の翻訳や京都における塾生への教育などを通じてのわが国兵制の近代化に貢献し、幕末・明治の政治に大きな影響を与えるとともに、山本覚馬などを通じて明治政府の施策や京都府政の発展にも大きく貢献した。

これに対し、勝は、幕臣として、わが国海軍の創設に貢献するともに、幕府が危機を迎える中で登用され、それぞれの局面において手腕を発揮したが、その政治行動は、結局は、薩長を中心とする諸藩の相対的な力を強め、結果として、勝の思惑とは異なり、武力による討幕を招くこととなった。

小山平六（６２期）